美高ＡＬ通信・第９号　　令和元年　８月３０日（金）　学力向上推進委員会

ＡＬ道中膝栗毛

【２学期もよろしくお願いします】

夏休みもあっという間に終わりました。学力向上推進委員会では、２学期に次のような取組を企画しています。色々とご協力をお願いする場面もあるかと思いますが、よろしくお願いいたします。

○１０月中旬～１１月ごろ　　授業観察月間および全員公開授業

講師以外のすべての先生にＡ４版の指導案を作成していただき、相互に観察する期間を設けます。

○１１月　７日（木）放課後　第１回研修報告会

主に夏休みの間に出かけた研修の報告会。田中・首藤・中西・桑原各先生より、１０分程度ずつ報告。

○１１月２１日（木）午後　　公開授業研究会

午後から①公開授業、②研究協議、③講演、の３本で実施する研究会。校外からも参加者を募ります。

授業者等	教科・科目	クラス（予定）	授業者
	地歴科（世界史Ｂ）	２－６	佐伯先生
	理科（化学基礎）	１－６	首藤先生
	外国語科（コミュニケーション英語Ⅱ）	２－２	中村先生

【協同学習について考えてみます④】

１１月２１日の公開授業研究会では、岡山大学の髙旗浩志先生に助言をいただきます。先生の研究会や講演会に出席したことがあるのですが、次のようなお話がありました。

「その授業のめあて（課題）を提示してください。ここが授業の入口となります。その上で、そのまま授業に入るのではなく、そのめあて（課題）をしっかり吟味させてください。**課題の意味を生徒自身が考え、何が解ればいいのか、今の時点で何が解らないのかを全体で共有する工夫**を考えてみてください。」

授業の型として「めあての提示」は昨年度より先生方にお願いしているところですが、上記の発言の意図するところは「提示の仕方にも工夫が必要だ」ということだと思います。たとえば、現代文『羅生門』の授業をするとき、どのような「めあて」が適切でしょう。

①下人の心情をとらえる。
②下人の心情を、変わる前と後を比較して考えることができる。
③全員が、下人の心情がどう変わったか、その前後の違いを説明できる。

①よりも②の方が具体的、さらに③になると「全員が」という協同学習のゴールが示されるとともに「説明できる」という「見えるゴール」が示されています。つまり③のようなめあてであれば、何ができるようになればよいのか、今の段階で何が分からないのかを明確につかむことができます。委員会では、この例で示したような**「全員が」・「～できる」というのが、協同学習におけるめあてのポイントになる**と考えました。（この稿つづく）